○乗鞍岳ノ地衣採集（朝比奈泰彦）

最近日本産赤實ヲ有スル *Cladonia* ノ識別ニ沒頭シテ居タガ、今迄ノ標本デハ滿足ガ出來ナクナリ今一度現地デ充分ニ觀察シテ見タイ氣ニナツテ、昭和 14 年 7 月 13 日ニ渡邊武、朝比奈菊雄ノ兩生ヲ用心棒トシテ出發。松本驛カラ島々ヲヘテ白骨口デバスヲ下車シ、ソコカラ白骨溫泉迄約 30 丁ノ山道ハ前日豪雨ノ名殘リデ所々ニ押流サレタ土砂ヲ踏越ヘ溫泉入口ノ石灰岩ニハ *Solorina platycarpa*（本誌第 11 卷第 156 頁）ガ濕リヲ含ンデ深綠色ヲ呈シ吾人ヲ歡迎シテクレタ。翌 14 日ハ朝カラ小雨ヲ冒シテ冷泉小屋目指シテ出發。白骨附近ノ草原ヲ橫切リ森林地帶ニ入ル。コヽハ中部日本何處モ同ジフローラデ富士ノ 1-2 合目ノ森林ニアルモノト大差ハナイカラアマリ道草ヲ喰ハズニ通過シ午後 4 時頃冷泉小屋 (2100 m) ニ到着シ輕裝シテ附近ヲアサル。とうひノ枝ニさるをがせ夥シク懸垂シ上部針葉樹帶ノ特徵ヲ示ス。*Cladonia cenotea*（地上生ノ小地衣）ノ小塊ヲ採ル。翌 15 日好天候ニ勢ヲ得テ一氣ニ肩小屋ヲ目指シテ登山ス。此間 *Parmeliopsis ambigua* (WULF.) NYL. ヲトル。吾國ニ產スル此屬ノモノノ最初ノ記錄ハ植物學雜誌第 32 卷 (No. 379), p. 154 ニ WAINIO ガ安田篤氏送付ノ伯耆大山產ノモノヲ *Cetraria aleurites* (ACH.) TH. FR. ト同定シごへいごけ(御幣苔)ト云フ和名ヲツケタ。HILLMANN (FEDDE; Repert. XXXIII, 168–176, 1933) ノ新命名ニヨレバ *Parmeliopsis pallescens* (HOFFM.) A. ZAHLB. R. emend. HILLMANN ト云フモノデアル。コレハ日本北アルプス及日光ナゾニ屢ミ出現スル。佐藤正己氏 (Biogeographia, vol. I, 105–155, 1937) ハ大雪山地衣目錄中デ初メテ *P. ambigua* (WULF.) NYL. ヲ記錄シ、予モ已ニ樺太採集品中ニコレヲ確認シテ居ルガ、內地デハ今回ノ乗鞍產ヲ以テ最初ノ記錄トスル。第三ノ同屬品ハ *P. hyperopta* ARN. デ樺太、北海道カラ日本北アルプス富士山森林帶迄南下シテ居ル。*P. ambigua* ト *P. hyperopta* トノ含有成分ニツイテハ本誌第 12 卷第 868 頁ヲ、又 *P. pallescens* ニツキテハ本誌第 14 卷第 768 頁ヲ參照サレタイ。

肩ノ小屋直下ノ雪溪デ一汗シボツテ正午少シ前小屋ニツク。小屋ノ主人福島清敬氏菊雄ト面識アリ萬事好都合ナリ。晝食後輕裝シテ頂上目指シテ進發、朝日岳トこだま岳ノ鞍部ニ出テ頂上ノ方面ヲ望メバ石塊小形ニシテはいまつ其他ノ綠色部殆ド皆無、收穫覺束ナシト感ジ右方朝日岳 (3000 m) ニ攀ヂ權現池ヲ左下ニ見ツヽ其尾根ヲ搜索シツヽ下向ス、相當ノ獲物アリ。此時大腸ノ壓力ヲ弛メントシテ岩塊ノ間ニ踞シ、精神ヲ靜メテ四方見廻シツヽアリシニ、忽然一珍物ヲ發見ス。*Buellia pulchella* ノ立派ナル標本ナリ。本邦第 4 回目ノ發見デ余ノ藏品中最モ大ナルモノデアル（本誌第 13 卷第 847 頁參照）。暫クシテ權現池ニ下ル鞍部ヲ右折シ平坦ナル場所ニ出デ浸出用ノ *Cladonia bellidiflora* ヲ搜索シツヽ時々はいまつノ群落ヲ泳ギツヽ旗鉾道ニ出デ肩ノ小屋ニ歸テ身體ヲ休メタ。翌 16 日ノ豫定ハ平湯ニ下リ高山ニ出ルノデアツタガ、之ヲ變更シ今一日肩小屋附近ノはいまつ群ノ割レ目ヲ搜索シ相當量ノ *Cl. bellidiflora* ヲトリ、又 *Cladonia deformis* f. *gonecha* ノ大群ニ遭遇シタ。此後者ハ內地デハ初メテノ奇形ヲナセル大形ノモノデアル。*Cl. bellidiflora* ニシテモ *Cl. deformis* ニシテモ北部獨逸デハ平野ニ見ラルヽモノデアルガ日本中部テハ少ク

モ 2000 米ノ高所デナケレバ出會ハナイノデアル。但シ樺太デハ榮濱ノ海岸ニ産シテ居ル。要スルニ乘鞍岳肩小屋附近ノ高原ハ *Cladonia* ノ豐庫デアツテ且ツ多量ヲ産スルコトハ日本北アルプス連峯中第一ノ場所デアル。

○パルメリア・セントリフーガ吾國ニ産ス（朝比奈泰彦）

從來吾國高山性ノ *Xanthoparmelia* 節ヲ代表シテ居タモノハ *Parmelia incurva* ト *P. diffugiens* (Bot. Mag. Tokyo, Vol. XLI., p. 348, 1927) トデアツタ。此ノ *P. diffugiens* ハ西駒頂上デ採集シタ予ノ送品ヲ基礎トシテ ZAHLBRUCKNER ノ設定シタモノデ、歐州産ノ *P. centrifuga* ニ酷似スルコトハ ZAHLBRUCKNER モ已ニ指摘スル所デ、差異ハ葉體ノ分岐ガ互ニ分離 (discrete) シテ居リ *centrifuga* ノ如ク密接重疊シテ居ラヌ點ト、裏面ハ全ク暗色デ僅ニ周邊ニ於テ淡明デアルコトハ *centrifuga* ノ全裏面ニ亙ツテ白色デアルノト全ク異ルノデアル。反應ハ兩者全ク同一デ Th. K+ 黃色、Med. Ca, −, KC+ 紅色デ顯微化學的操作ニヨリウスニン酸、アトラノリン及アレクトーロン酸ヲ檢出シタ。



おほうばゆりノ巨大莖ト朝比奈先生
(昭和 14 年 9 月 1 日　前川撮ス)

頃日予ハ越中立山産ノ *diffugiens*, 標本ヲ再檢シツヽアリシ時裏面ノ白色ナル共雜品アルヲ認メヨク調ベタ所 *centrifuga* ニ外ナラヌコトヲ知リ更ニ北海道産ノ標本デ無造作ニ *diffugiens* トシテ片附ケテアツタモノヲヨク見ルトトムラウシ岳ノモノハスベテ *centrifuga* デアツタノデ茲ニ *P. centrifuga* ガ吾國ニモ産スルコトヲ決定シタ次第デアル。

○おほうばゆりノ果莖（前川文夫）

コノ寫眞ハ本誌主筆朝比奈泰彦先生デアルコトハ讀者諸兄ノスグ御判リノコトト思フガ、先生ガ右手ニ錫杖ノ樣ニ重サウニ持タレタ丈ノ高イモノハ果實ニナツタおほうばゆり (*Cardiocrinum Glehni* MAKINO) デアル。コレハ本年 7 月 10 日、先生ガ信州上高地カラノ歸途、同地下流ノ澤渡デ一泊サレタ所、旅館ノ床ノ間ニ飾ツテアツタノヲ早速主人ニ交渉、讓リ受ケラレテ、脹物ニ觸ル樣ニシテ御自分デ東京迄持チ歸ヘリ東大理學部植物學教室ニ寄贈サレタモノデ、ソノ高サヲ示ス爲ニ先生ヲ拜借シテ撮ツタノデアル。先生カラ伺ツタ處デハ、旅館ノ主人某氏ガ本年 2 月ニ上高地ノ某溫泉ノ源泉附近デ積雪ガ